



Rotary



2015-2016 年度

国際ロータリー会長 / K. R. ラビンドラン
2690地区ガバナー / 佐藤 芳郎

会長 / 河原 治子 副会長 / 田中 浩史
幹事 / 清原 正幸 会 計 / 田中 久雄

■平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL : 0853-63-3232 / FAX : 63-5365 / IP : 050-5204-5816
URL : <http://hirata-rotary.jp/> Mail : office@hirata-rotary.jp
9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

■例会プログラム ■

例会日	卓話者	演題
9月10日	会 員 大谷 厚郎	小泉八雲の愛弟子「大谷繞石」について
9月17日	原 豊 様	音楽と私
9月24日	休 会	
10月1日	出雲市 副市長 野口 武人 様	自己紹介に代えて 自分の経験からの四方山話

■スマイル ■

河原 (大谷会員、今日はスピーチありがとうございます。)
清原 (大谷会員、本日はスピーチ宜しくお願いします。)
大谷 (つたないお話ですが本日の卓話を務めさせていただきます。)

■スピーチ・例会行事 ■

「小泉八雲の愛弟子『大谷繞石』について」

大谷 厚郎 会員



本日は、私の祖父である大谷弥吉のいとこにあたる大谷正信～俳号「繞石(ぎょうせき)」～についてお話しさせていただきます。正信は、明治8年3月に松江京店で生まれ、昭和8年11月に58歳で亡くなっています。

島根県尋常小学校在学中に英語教師として赴任したラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と出会い

親交を深めています。翌年ハーンが熊本五高へ転勤した際には、繞石が生徒代表で送辞を述べています。

第三高等学校に入学後、学制改革で仙台の二高への転学を経て、東京帝国大学文科大学英文科に入学した際、奇しくも英語主任教師として熊本五高から赴任したハーンと再会を果たします。この時期、正信は生活に困っている状況であったため、ハーンの研究を手伝って報酬を得ることになり、非常に感謝していました。その後、ハーンから破門同然の状態になってしまいましたが、ハーン没後には家族との交際を再開し、後年には小泉八雲全集出版のための翻訳に携わっています。

三高時代に高浜虚子・河東碧梧桐・坂本四方太と知友になり俳句の手ほどきを受けました。帝大入学翌日には、子規庵句会に参加して門下生となり、明治30年(22歳時)国内五番目の子規派句会「碧雲会」を松江に結成することに尽力しました。

繞石の代表的な句、「鹿笛の一つは谷へ下るらし」、「泉水に簍くづる桜かな」など、四季が明快で素直な句だったようです。

明治38年に夏目漱石と知友になり、42年(34歳時)に英国に留学しました。留学前の明治天皇拜謁の折には夏目漱石より燕尾服を拝借しています。帰国後は金沢の四高に戻り、「滞英二年案山子日記」を出版しました。夏目漱石は大正5年に死亡しましたが、繞石が送った金沢名産「つぐみの粘漬け」が死亡の要因ではないかともいわれています。

繞石の代表作は、「小泉八雲全集(翻訳)」、句集「落椿」、「滞英二年案山子日記」、随筆集「北の国より」や「己がこと人がこと」です。

繞石には子供がなくその活動を伝えられることなくほとんど知られていませんでしたが、繞石を永年研究されていた日野雅之さんが「松江の俳人・大谷繞石」を自費出版されたところ、俳人協会評論賞を受賞されました。また繞石の功績をたたえる句碑が、平成24年、生家近くの松江市京店の一画に建てられました。お墓は松江市寺町「恩敬寺」にあります。

■出席報告 ■

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前々回補正出席率
44	35	9 (3)	85.37 %	78.05 %

■欠席者 ■

黒田 / 石原俊 / 園山 / 山口 / 土江 / 杉原
(山根 / 牧野 / 木村)

■来訪者 ■

なし

■メイクアップ ■

なし

■次回例会受付当番 ■

(10月1日) 土江光二 / 飯塚詔夫 / 飯塚俊之
(10月8日) 小村益造 / 石原俊太郎 / 石原輝男

■近隣クラブ例会情報 (メイクアップを考えましょう) ■

月	出雲中央	松江南
9/28	12/14	10/19
	12/28(休) 1/4(休)	
火	出雲 12/29(休)	松江しんじ湖 10/20 10/27
水	大社 10/7 10/21	松江
木		松江東 9/24
金	出雲南	

■会長挨拶 ■

行きすぎの禁煙運動

今日は少し気にかかっていることなどお話しします。
此の頃、禁煙運動が全国的に広がっている。身体に悪い、人に迷惑などの理由で毛嫌いを示し、急激に喫煙者を追い込んでいる。
和田竜(作家)と云う人を御存知でしょうか？
「のぼうの城」で作家デビュー。「忍びの国」で直木賞の候補、「村上海賊の娘」で吉川英治賞、その後全国本屋大賞受賞の、ばりばりの作家である。この人が執筆中一区切りタバコを一服吸う。良き展開を思い浮かべ又一服タバコを吸う。ああ苦しい、何もかも駄目の時、再び一服。
と繰り返しながら小説を完成する。
そのためにはタバコが断然必要！
脳の栄養は「ニコチンと糖分」と何かの本で読んだ。
吸う人、吸わない人お互いに容認しあい、自己責任と自己判断さえあれば禁煙運動などやらない方がよいのではないか。
成熟社会の大人になろう。私は大賛成！ 拍手を送りたい。

■幹事報告 ■

1. 2014-15 年度地区ガバナー 松本祐二様より、任期終了のご挨拶と8月31日をもってガバナー事務所閉鎖のお知らせを頂きました。